

寄宿舎グループ

1 テーマ

卒業後の生活を見通した指導を考える」
～ 個別の指導計画を活用して ～

2 目的

卒業後の生活を見据えた個別の指導計画を設定し、その評価を基に卒業後に生活するための力に見通しを持つ。

3 設定理由

生きる力の五要素に基づいて、生徒の現況を把握し、個別の指導計画において、卒業後に生活するための力につなげていけるように設定した。

4 仮説

寄宿舎では個別の指導計画で課題とされた中から、1年間で到達できる長期目標を設定し、さらに前期、後期としての短期目標を設定し達成に向けた指導を行う。

個別の指導計画から課題をデータ化し、7月と10月の五段階評価を比較することで五要素での成長度を把握することができる。また、成長したところと弱いところがわかり、支援の方法を振り返り次の指導の手立てや配慮することを考えた上で、次の指導につなげることができると考えられる。

5 経過と内容

今年度の寄宿舍の指導体制は、舎生は男子棟1名、女子棟4名。職員は男子棟5名、女子棟8名で、生活指導や行事については男女棟毎に行っている。

研修部として出てきた結果をどのように活用するのか明確に伝えていなかった。そのため、10月の実態の評価の際、前期の評価を受けて後期の目標設定へつなげていくことを、全体に提示できなかった。

実践研究として舎生の様子を各棟で確認する時間を設定しなかったこと、研修部内で各棟の進捗状況を共有していなかったことにより困惑させてしまった。

各棟ともに個別の指導目標の達成のため、指導会議や打ち合わせの時間を使いながら、棟内で指導方法と内容について細かく共通理解を図るため話し合いを行っている。

実践研究として女子棟は前期について棟内で指導の進捗状況や指導してもらいたいことの共通理解などの確認を、うまく進めることができなかったため、後期から棟内で話し合い確認をしながら進めてきた。

男子棟も意見をもらいながら、その都度職員間で確認を行い進めることができた。前期の取組と評価を検証し、後期短期目標へ指導が継続されていることを確認した。

(1) 個別の指導計画、短期目標と身につけたい力について
実践研究では個別の指導計画の短期目標に基づいて、7月
と10月に実態把握と指導後の評価を行い、レーダーチャート
で表し比較した。

レーダーチャートは複数の項目を一見して比較することができ、7月と10月の状態を比べることで、成長したところ
と弱いところがわかる。また、二つのグラフの外側を見ると、
今後成長が期待できるところがわかるため使用した。

(2) 生きる力の五要素の五段階評価

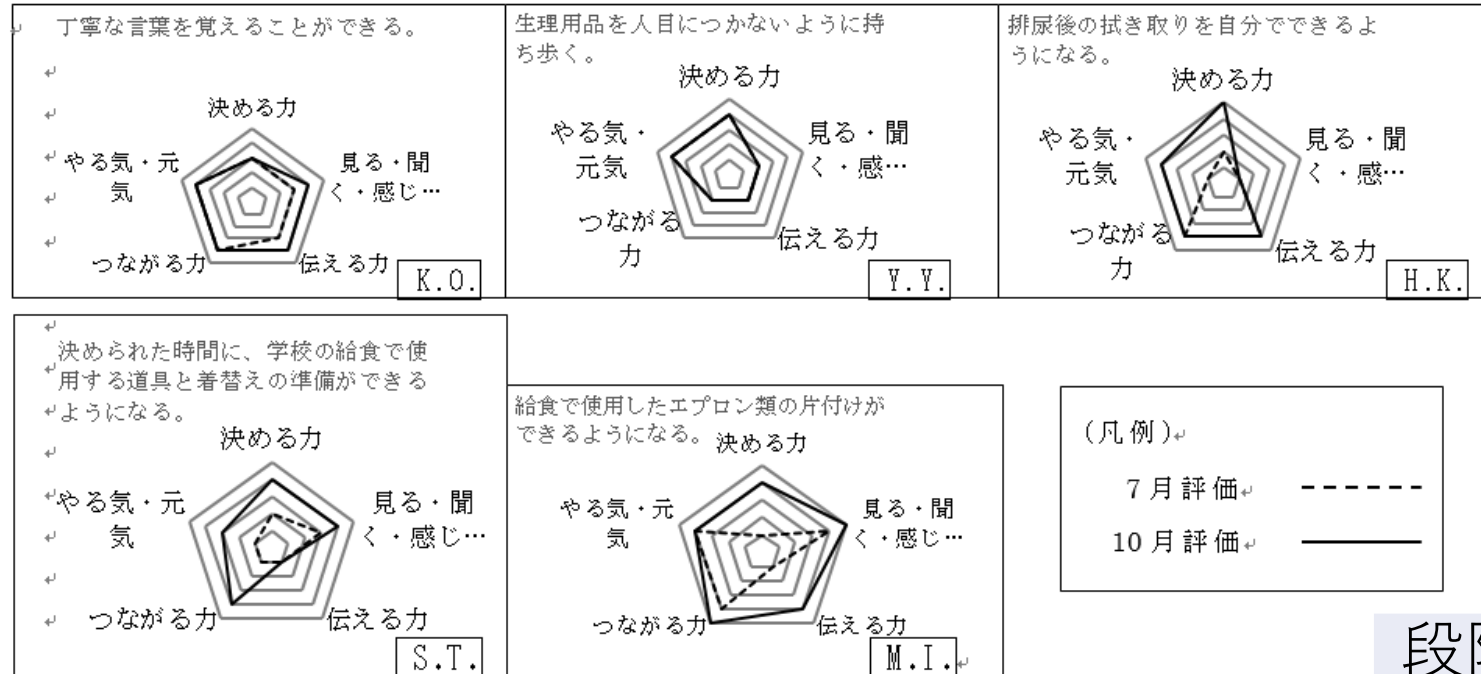
①各要素の身につけたい力を設定した。

②要素毎に五段階の評価を2回実施した。

評価の段階は、下の表のとおりとした。

個別の指導計画はICFをもとにしていることから、
1は支援を受けてできる内容とした。

③舎生5名の評価結果は下のグラフの通り。



段階	内 容
1	職員と一緒に取り組む
2	職員が見本を示せば取り組める
3	カード、写真などを見て取り組める
4	言葉の指示で取り組める
5	自分でできる

6 考察

(1) 身につけたい力

舎生の卒業後の生活を見据え個別の指導計画を作成し、長期目標から短期目標を設定している。

短期目標をもとに生きる力の五要素をあてはめて身につけたい力を設定したが、難しい項目があったため長期目標に幅を広げた。

(2) 五段階評価について

統一した評価基準で評価がしやすいとの理由から五段階評価が妥当と考えた。

ア 7月と10月を比較すると、短期目標についての生きる力は伸びていることがわかった。

イ 変化はあったが小さい成長であったため、評価基準に照らし合わせると同じ段階になってしまう。このため、変化はないという結果になった舎生もいた。

ウ 体の機能上自分でできないこともある。しかし、評価の基準に環境因子を含めていれば段階は上がった。

エ 舎生ひとりひとりの必要な生きる力や評価するための基準に違いがあるため、同じ段階表での評価は難しかった。

7 まとめ

身につけたい力は五要素に当てはめて設定したことで、舎生の実態の変化がわかり、日常の生活指導で意識することができて良かった。

また、個別の指導計画の指導方法にのっとった指導が行われ、7月よりも10月の方が伸びた結果が出ていることから、日常の生活指導によって、生きる力を獲得できたことがわかった。

指導方法を職員間で細部にわたって共通理解を図り指導することで、舎生の状況を把握することができ、指導会議や打ち合わせで状況を伝え合いより良い方法を探すことができると考えられる。

また、卒業後の生活を見据え、生きるために必要な力は何かを考えながら、個別の指導計画を立てることが大切なことであるとわかった。

8 今後に向けて

後期短期目標の指導については、細部まで共通理解が図れるように打ち合わせの時間などを有効に使い、舎生の指導にあたる機会を増やしていく。

個別の指導計画において、卒業後に生活するための力になげられるように、生きる力の五要素に基づいて目標を設定し獲得に向け取り組んでいきたいと考える。